

家具製造業D社で正社員として働くcさんは、高校卒業後、アルバイトでお金をためてはアジアを旅するバックパッカーであった。旅が大好きだったcさんは、「手に職さえあれば海外に行って戻ってきても仕事が見つけやすいのではないか」という思いを漠然と抱いていたと言う。

- 26歳の時、職人になろうと考えて専門学校に行った。木工技術を選んだのは思いつきでしかないと本人は言うが、もともと自分で何かを作ることは好きだったそうである。
- 専門学校卒業後に働いたのは飲食店であったが、作家の展覧会等を開催しているような店舗で、家具を自作しているところにも惹かれてアルバイト募集に応募した。アルバイト先選びにおいても、「モノづくりが好き」「家具が好き」という興味・こだわりを大事にした。その飲食店では家具を作ることはなかったが、梁を塗る等の作業をすることはあった。
- 本格的に社員になって勉強がしたいと思った時に、専門学校の知り合いが以前勤めていたD社に応募した。流れ作業ではなく、丁寧なモノづくりをするD社は、本気で家具職人になりたいと考えていたcさんには理想の修行の場だと感じられた。
- もちろん、専門学校で学んだだけでは、技術的には素人同然である。しかし、家具づくりへの興味を専門学校進学、アルバイトでの体験と行動につなげたことで、やりたい仕事のイメージが明確になり、仕事につながるネットワークを得ることも出来た。
- cさんを採用した社長は、「家具づくりは努力で出来る仕事だと感じている。だからこそ、常に努力できる人材であることが重要。社長は、正社員として働くことで、責任感を持って真面目に働いてくれている。」と話し、cさんの努力を高く評価し厳しく指導しつつも、成長を温かく見守っている。